

[1] 色彩盛花様式本位における、谷渡りの扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

P.57

傾斜型 に花型構成し、 **8** 枚の偶数挿しにする。花留を丸水盤の **中心線上** に置き、 **一株挿し** にする。葉に **大小長短** の差をつけ、主枝は **標準寸法**、副枝は主枝の **3/4**、中間に使う4枚の葉は主枝の **2/3**、小葉2枚は主枝の1/2以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間4枚は二つ付の七宝の **縦穴** に挿して、 **輪状の株立ち** の表現にし、その中心部に若い葉の表現として小葉2枚を向かい合わせに挿す。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|--------|-------|-------|
| ・大小長短 | ・直立型 | ・2/3 | ・8 | ・4 | ・標準寸法 |
| ・1/2 | ・中心線上 | ・輪状の株立ち | ・傾斜型 | ・11 | ・2倍 |
| ・一株挿し | ・大穴 | ・3/4 | ・眼前の草花 | ・一木挿し | ・縦穴 |

[2] 春の写景盛花様式本位・近景のうち、下記の主材における基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

P.64

	主材	取 合 せ
1	鳴子百合	鳴子百合 ・ 都忘れ ・ 日蔭
2	いちはつ	いちはつ ・ 都忘れ ・ 日蔭
3	麦	麦 ・ 菜の花 ・ 日蔭
4	春蘭	春蘭 ・ 錦紅花つつじ ・ 日蔭 又は 山しだ

[3] いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○同朋衆

P.98

室町 時代の職制の一つ。階級の職名。阿弥号を名乗る時宗の僧侶で、 **阿弥衆** と呼ばれる。幕府の雑務を務め、 **唐物鑑定** や座敷飾り、連歌や書画などの技芸をもって将軍に仕えた。三代将軍 **足利義満** の頃には観阿弥・ **世阿弥** 父子が活躍した。その後、義持の時代を経て、義政の頃は、延べ数十人の同朋衆がいたことが推定され、能阿弥の一家は、阿弥芸能人の代表としてよく知られている。

○古田織部

P.99

安土桃山 時代の武将・茶人。 **千利休** の高弟。織田信長、 **豊臣秀吉** に仕え、後に徳川家に通じ **秀忠** の茶の湯師範をつとめた。当時の茶道・いけばなに新境地を開き、武家茶道の確立につとめた。茶陶に「 **織部好み** 」の原点をつくった。

- | | | | | | |
|-------|-------|------|------|-------|--------|
| ・千利休 | ・足利義政 | ・鎌倉 | ・阿弥衆 | ・秀忠 | ・唐物鑑定 |
| ・安土桃山 | ・造園 | ・世阿弥 | ・家光 | ・太政大臣 | ・長谷川等伯 |
| ・信楽焼 | ・足利義満 | ・室町 | ・能阿弥 | ・織部好み | ・豊臣秀吉 |

筆記試験

〔1〕色彩盛花様式本位における、谷渡りの扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

〔イ〕に花型構成し、〔ロ〕枚の偶数挿しにする。花留を丸水盤の〔ハ〕に置き、〔ニ〕にする。葉に〔ホ〕の差をつけ、主枝は〔ヘ〕、副枝は主枝の〔ト〕、中間に使う4枚の葉は主枝の〔チ〕、小葉2枚は主枝の1/2以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間4枚は二つ付の七宝の〔リ〕に挿して、〔ヌ〕の表現にし、その中心部に若い葉の表現として小葉2枚を向かい合わせに挿す。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|--------|-------|-------|
| ・大小長短 | ・直立型 | ・2/3 | ・8 | ・4 | ・標準寸法 |
| ・1/2 | ・中心線上 | ・輪状の株立ち | ・傾斜型 | ・11 | ・2倍 |
| ・一株挿し | ・大穴 | ・3/4 | ・眼前の草花 | ・一木挿し | ・縦穴 |

〔2〕春の写景盛花様式本位・近景のうち、下記の主材における基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	主材	取 合 せ
1	鳴子百合	鳴子百合 ・
2	いちはつ	いちはつ ・
3	麦	麦 ・
4	春蘭	春蘭 ・

〔3〕いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○同朋衆

〔①〕時代の職制の一つ。階級の職名。阿弥号を名乗る時宗の僧侶で、〔②〕とも呼ばれる。幕府の雑務を務め、〔③〕や座敷飾り、連歌や書画などの技芸をもって将軍に仕えた。三代将軍〔④〕の頃には観阿弥・〔⑤〕父子が活躍した。その後、義持の時代を経て、義政の頃は、延べ数十人の同朋衆がいたことが推定され、能阿弥の一家は、阿弥芸能人の代表としてよく知られている。

○古田織部

〔⑥〕時代の武将・茶人。〔⑦〕の高弟。織田信長、〔⑧〕に仕え、後に徳川家に通じ〔⑨〕の茶の湯師範をつとめた。当時の茶道・いけばなに新境地を開き、武家茶道の確立につとめた。茶陶に「〔⑩〕」の原点をつくった。

- | | | | | | |
|-------|-------|------|------|-------|--------|
| ・千利休 | ・足利義政 | ・鎌倉 | ・阿弥衆 | ・秀忠 | ・唐物鑑定 |
| ・安土桃山 | ・造園 | ・世阿弥 | ・家光 | ・太政大臣 | ・長谷川等伯 |
| ・信楽焼 | ・足利義満 | ・室町 | ・能阿弥 | ・織部好み | ・豊臣秀吉 |

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○縮小挿法

遠景 描写において、**一木挿し** などの技法によって **遠望する大樹** を表現する際に、その配材にできるだけ

小ぶり なもの、しまったものを使い、**低く短く** いけて遠望する感を強調する挿法。

○一種挿し

一種の花材だけで構成する作品。写景盛花様式本位基本取合せでは、**蓮** (夏の遠景描写)、**燕子花** (春・初夏・夏・秋・**晩秋** の近景描写)、花菖蒲 (夏の**近景** 描写)、**睡蓮** (夏の近景描写)が定められている。

・遠望する大樹	・燕子花	・冬	・大ぶり	・海芋	・遠景
・中景	・一木挿し	・蓮	・一株挿し	・睡蓮	・低く短く
・眼前の草花	・晩秋	・小ぶり	・近景	・河骨	・高く長く

〔2〕 春の写景盛花様式本位・遠景のうち、下記の主材における基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	主材	取 合 せ
1	万吉杉	万吉杉 ・ 桜 ・ つつじ ・ 都忘れ ・ 日蔭
2	えぞ松	えぞ松 ・ すずらん ・ 日蔭
3	梅	梅 ・ 錦紅花つつじ ・ 日蔭
4	唐桃	唐桃 ・ 貝母 ・ 日蔭

〔3〕 いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○御食布言己

室町 時代の座敷飾りの秘伝書で、相阿弥が記したもの。**同朋衆** としての経験と知識に基づいて、絵画とともにまとめている。内容は**足利義政** の東山山荘と、足利義尚の小川邸における座敷飾りの詳細で、

『**東山殿御飾記**』とも呼ぶ。相阿弥は、祖父**能阿弥** に劣らない優れた才能の持ち主で、諸芸に通じ、東山期を代表する文化人として知られる。

○小堀遠州

江戸 時代前期の茶人・造園家。茶道を**古田織部** に学び新たに一流を創始した、**徳川家** の茶道指南。

遠江守 で遠州と称する。絵画・和歌・いけばな・建築・陶磁・造園に巧みであった。**桂離宮** や大徳寺孤篷庵

は彼の作とされている。

・能阿弥	・織田家	・遠江守	・同朋衆	・千利休	・東山殿御飾記
・江戸	・足利義満	・古田織部	・鎌倉	・徳川家	・君台観左右帳記
・公家	・聚楽第	・室町	・音阿弥	・足利義政	・桂離宮

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○縮小挿法

① 描写において、② などの技法によって③ を表現する際に、その配材にできるだけ④ なもの、しまったものを使い、⑤ いけて遠望する感を強調する挿法。

○一種挿し

一種の花材だけで構成する作品。写景盛花様式本位基本取合せでは、⑥ (夏の遠景描写)、⑦ (春・初夏・夏・秋・⑧ の近景描写)、花菖蒲 (夏の⑨ 描写)、⑩ (夏の近景描写)が定められている。

・遠望する大樹	・燕子花	・冬	・大ぶり	・海芋	・遠景
・中景	・一木挿し	・蓮	・一株挿し	・睡蓮	・低く短く
・眼前の草花	・晩秋	・小ぶり	・近景	・河骨	・高く長く

〔2〕 春の写景盛花様式本位・遠景のうち、下記の主材における基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	主材	取 合 せ
1	万吉杉	万吉杉 ・
2	えぞ松	えぞ松 ・
3	梅	梅 ・
4	唐桃	唐桃 ・

〔3〕 いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○御食布記

イ 時代の座敷飾りの秘伝書で、相阿弥が記したもの。ロ としての経験と知識に基づいて、絵画とともにまとめている。内容はハ の東山山荘と、足利義尚の小川邸における座敷飾りの詳細で、『ニ 』とも呼ぶ。相阿弥は、祖父ホ に劣らない優れた才能の持ち主で、諸芸に通じ、東山期を代表する文化人として知られる。

○小堀遠州

ヘ 時代前期の茶人・造園家。茶道をト に学び新たに一流を創始した、チ の茶道指南。リ で遠州と称する。絵画・和歌・いけばな・建築・陶磁・造園に巧みであった。ヌ や大徳寺孤篷庵は彼の作とされている。

・能阿弥	・織田家	・遠江守	・同朋衆	・千利休	・東山殿御飾記
・江戸	・足利義満	・古田織部	・鎌倉	・徳川家	・君台観左右帳記
・公家	・聚楽第	・室町	・音阿弥	・足利義政	・桂離宮

筆記試験

[1] 色彩盛花様式本位における、谷渡りの扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

P.33

傾斜型 に花型構成し、**8** 枚の偶数挿しにする。花留を丸水盤の **中心線上** に置き、**一株挿し** にする。葉に **大小長短** の差をつけ、主枝は **標準寸法**、副枝は主枝の **4分の3**、中間に使う4枚の葉は主枝の **3分の2**、小葉2枚は主枝の2分の1以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間4枚は二つ付の七宝の **縦穴** に挿して、**輪状の株立ち** の表現にし、その中心部に若い葉の表現として小葉2枚を向かい合わせに挿す。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|--------|-------|-------|
| ・大小長短 | ・直立型 | ・3分の2 | ・8 | ・4 | ・標準寸法 |
| ・2分の1 | ・中心線上 | ・輪状の株立ち | ・傾斜型 | ・11 | ・2倍 |
| ・一株挿し | ・大穴 | ・4分の3 | ・眼前の草花 | ・一木挿し | ・縦穴 |

[2] 写景盛花様式本位の下記の主材による春の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

P.64

描写法	主材	取合せ
近景	いちはつ	いちはつ・都忘れ・日蔭
近景	春蘭	春蘭・錦紅花つつじ・日蔭または山しだ
遠景	えぞ松	えぞ松・すずらん・日蔭
遠景	雲竜柳	雲竜柳・燕子花・日蔭

[3] いけばな史にあらわれる次の人物について、空欄には当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○千利休

P.99

安土桃山 時代の茶人。**千家流** の祖。**武野紹鷗** に茶道を学び、**侘茶** を完成させた。初め **織田信長** に仕え、後に豊臣秀吉に仕えて寵遇が厚かったが、秀吉の怒りを受けて死を賜わった。

○尾形乾山

P.107

江戸 時代中期の **陶工** ・画家。尾形光琳の弟。**野々村仁清** に陶法の技法を学び、大胆でおおらかなデザインの器は「**乾山焼**」と呼ばれた。兄の光琳が絵付けをした作品も多い。代表作に《**錆藍金絵繪替皿**》などがある。

- | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|----------|
| ・侘茶 | ・須恵器 | ・安土桃山 | ・陶工 | ・造園家 | ・錆藍金絵繪替皿 |
| ・鎌倉 | ・武野紹鷗 | ・桂離宮 | ・乾山焼 | ・千家流 | ・古田織部 |
| ・文人画 | ・江戸 | ・猪飼三枝 | ・織田信長 | ・徳川家康 | ・野々村仁清 |

筆記試験

[1] 色彩盛花様式本位における、谷渡りの扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

に花型構成し、 枚の偶数挿しにする。花留を丸水盤の に置き、 にする。葉に の差をつけ、主枝は、副枝は主枝の、中間に使う4枚の葉は主枝の、小葉2枚は主枝の2分の1以下とする。主・副を規定の位置に挿し、中間4枚は二つ付の七宝の に挿して、 の表現にし、その中心部に若い葉の表現として小葉2枚を向かい合わせに挿す。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|--------|-------|-------|
| ・大小長短 | ・直立型 | ・3分の2 | ・8 | ・4 | ・標準寸法 |
| ・2分の1 | ・中心線上 | ・輪状の株立ち | ・傾斜型 | ・11 | ・2倍 |
| ・一株挿し | ・大穴 | ・4分の3 | ・眼前の草花 | ・一木挿し | ・縦穴 |

[2] 写景盛花様式本位の下記の主材による春の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

描写法	主材	取合せ
近景	いちはつ	いちはつ・
近景	春蘭	春蘭・
遠景	えぞ松	えぞ松・
遠景	雲竜柳	雲竜柳・

[3] いけばな史にあらわれる次の人物について、空欄には当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○千利休

時代の茶人。 の祖。 に茶道を学び、 を完成させた。初め に仕え、後に豊臣秀吉に仕えて寵遇が厚かったが、秀吉の怒りを受けて死を賜わった。

○尾形乾山

時代中期の ・画家。尾形光琳の弟。 に陶法の技法を学び、大胆でおおらかなデザインの器は「 」と呼ばれた。兄の光琳が絵付けをした作品も多い。代表作に「 」などがある。

- | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|---------|
| ・侘茶 | ・須恵器 | ・安土桃山 | ・陶工 | ・造園家 | ・銚藍金絵替皿 |
| ・鎌倉 | ・武野紹鷗 | ・桂離宮 | ・乾山焼 | ・千家流 | ・古田織部 |
| ・文人画 | ・江戸 | ・猪飼三枝 | ・織田信長 | ・徳川家康 | ・野々村仁清 |

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位における、次の季節の燕子花の挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。 (2点×10)

●春

二枚組 の表組、裏組、 **五枚組** 、 **水切り葉** を使う。一株の **最前列** は五枚組および水切り葉とする。
葉組 の丈は低めにし、下は広く上は締まるように、ふっくらと組む。 **花** は葉組の間に覗き見る程度に低く挿す。

●初夏

季節の移り変わりを表現するため、 **春** と夏の株を混用し、主・ **副** の株は **夏** の挿法、 **客** 株を春の挿法とする。

- | | | | | | |
|------|------|------|-----|------|-------|
| ・花 | ・春 | ・五枚組 | ・夏 | ・八枚組 | ・水切り葉 |
| ・二枚組 | ・冬 | ・葉組 | ・実 | ・中間 | ・最後列 |
| ・副 | ・折れ葉 | ・最前列 | ・晩秋 | ・客 | ・虫食い葉 |

〔2〕 写景盛花様式本位の下記の主材による春の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。 (5点×4)

描写法	主材	取合せ
近景	燕子花(早春の挿法)	燕子花・日蔭
近景	鳴子百合	鳴子百合・都忘れ・日蔭
中景	芽出し木苺	芽出し木苺・燕子花・日蔭
遠景	唐桃	唐桃・貝母・日蔭

〔3〕 いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。 (2点×10)

○君台観左右帳記

室町 時代の **座敷飾り** の秘伝書。著者は **足利義政** の同朋衆・能阿弥と伝えられている。君台とは **将軍** の住居、左右とは侍者、帳記とは記録のこと。内容は3部に分かれている。巻頭部は中国六朝時代から元までの中国画人目録で、 **156人** の画家を能阿弥の鑑識によって上中下の3品等に序列をつけそれぞれを時代別に配して簡単な注が施されている。次の部は、書院飾りの諸方式を具体的に示す。最後の部は、中国の漆器、金工器、陶磁器、その他文房具の実際の特徴を挙げ、鑑賞上の真価を述べている。本書に書かれた美の序列は、その後の日本人の美に対する考え方に重大な影響を与え、現代の美術鑑定にも及んでいる。

○藤掛似水

江戸 時代中期、 **大阪** を中心に活躍した **池坊** の立華師。元禄時代、 **東大寺大仏開眼** に池坊会頭・ **猪飼三枝** とともに松一色の立華を立てたことで知られる。

- | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|------|----------|
| ・将軍 | ・造園 | ・大阪 | ・座敷飾り | ・未生流 | ・聚楽第 |
| ・江戸 | ・足利義満 | ・池坊 | ・室町 | ・公家 | ・東大寺大仏開眼 |
| ・30人 | ・池坊専応 | ・猪飼三枝 | ・足利義政 | ・平安 | ・156人 |

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位における、次の季節の燕子花の挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。 (2点×10)

●春

の表組、裏組、、 を使う。一株の は五枚組および水切り葉とする。
 の丈は低めにし、下は広く上は締まるように、ふっくらと組む。 は葉組の間に覗き見る程度に低く挿す。

●初夏

季節の移り変わりを表現するため、 と夏の株を混用し、主・ の株は の挿法、 株を春の挿法とする。

- | | | | | | |
|------|------|------|-----|------|-------|
| ・花 | ・春 | ・五枚組 | ・夏 | ・八枚組 | ・水切り葉 |
| ・二枚組 | ・冬 | ・葉組 | ・実 | ・中間 | ・最後列 |
| ・副 | ・折れ葉 | ・最前列 | ・晩秋 | ・客 | ・虫食い葉 |

〔2〕 写景盛花様式本位の下記の主材による春の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。 (5点×4)

描写法	主材	取合せ
近景	燕子花(早春の挿法)	燕子花・
近景	鳴子百合	鳴子百合・
中景	芽出し木苺	芽出し木苺・
遠景	唐桃	唐桃・

〔3〕 いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。 (2点×10)

○君台観左右帳記

時代の の秘伝書。著者は の同朋衆・能阿弥と伝えられている。君台とは の住居、左右とは侍者、帳記とは記録のこと。内容は3部に分かれている。巻頭部は中国六朝時代から元までの中国画人目録で、 の画家を能阿弥の鑑識によって上中下の3品等に序列をつけそれぞれを時代別に配して簡単な注が施されている。次の部は、書院飾りの諸方式を具体的に示す。最後の部は、中国の漆器、金工器、陶磁器、その他文房具の実際の特徴を挙げ、鑑賞上の真価を述べている。本書に書かれた美の序列は、その後の日本人の美に対する考え方に重大な影響を与え、現代の美術鑑定にも及んでいる。

○藤掛似水

時代中期、 を中心に活躍した の立華師。元禄時代、 に池坊会頭・ とともに松一色の立華を立てたことで知られる。

- | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|------|----------|
| ・將軍 | ・造園 | ・大阪 | ・座敷飾り | ・未生流 | ・聚楽第 |
| ・江戸 | ・足利義満 | ・池坊 | ・室町 | ・公家 | ・東大寺大仏開眼 |
| ・30人 | ・池坊専応 | ・猪飼三枝 | ・足利義政 | ・平安 | ・156人 |

筆記試験

〔1〕色彩盛花様式本位におけるいちはつと花菖蒲の扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○いちはつ

P.37

直立型 に花型構成する。葉は **自然組** を用いることを原則とする。葉の長短のつけ方は自由。 **二枚組** または三枚組を用い、 **爪** は必ず向き合わせる。 **副枝** は三枚組を使うことを原則とする。主枝の花は **縦** に用い、 **葉** より高くするが、それ以外の花は高さ・向きともに自由である。

○花菖蒲

直立型に花型構成する。花は **3** 本以上用い、葉は自然組とするが、一番前に挿す葉は **三枚組** を用いる。花の高さ・向きに定めはない。花菖蒲は主枝・ **中間枝** にのみ用い、副枝には配材を用いる。

・二枚組	・葉	・下垂型	・副枝	・自然組	・八枚組
・中間枝	・五枚組	・横	・3	・直立型	・はかま
・爪	・11	・客枝	・縦	・三枚組	・実

〔2〕写景盛花様式本位における、下記の春の主材の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

P.64

主材	季節	描写法	取合せ
いちはつ	春	近景	いちはつ ・ 都忘れ ・ 日蔭
麦	春	近景	麦 ・ 菜の花 ・ 日蔭
小松	春	中景	小松 ・ 乙女百合 ・ 日蔭
梅	春	遠景	梅 ・ 錦紅花つつじ ・ 日蔭

〔3〕いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

P.99

○古田織部

安土桃山 時代の武将・茶人。 **千利休** の高弟。 **織田信長** 、豊臣秀吉に仕え、のちに徳川家に通じ **秀忠** の茶の湯師範をつとめた。当時の茶道・いけばなに新境地を開き、武家茶道の確立に努めた。茶陶に「 **織部好み** 」の原点をつくった。

○挿花百練

P.105

江戸 時代後期、未生流を興した **未生齋一甫** が口述した指導書『 **本朝挿花百練** 』ともいう。3本の役枝による基本の花型を **直角二等辺三角形** に当てはめ、これを「鱗(うろこ)」と称し、 **天地和合** の宇宙観と虚実等分の理論によって生花の構成を説いた。指導書としてだけでなく、いけばな理論書としても貴重である。

・足利義満	・江戸	・秀忠	・小堀遠州	・天地和合	・不等辺三角形
・織部好み	・乾山焼	・千利休	・綱吉	・未生齋一甫	・直角二等辺三角形
・織田信長	・明治	・御飾記	・安土桃山	・池坊専応	・本朝挿花百練

筆記試験

〔1〕色彩盛花様式本位におけるいちはつと花菖蒲の扱いの要点について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○いちはつ

イ に花型構成する。葉は **ロ** を用いることを原則とする。葉の長短のつけ方は自由。 **ハ** または三枚組を用い、 **ニ** は必ず向き合わせる。 **ホ** は三枚組を使うことを原則とする。主枝の花は **ヘ** に用い、 **ト** より高くするが、それ以外の花は高さ・向きともに自由である。

○花菖蒲

直立型に花型構成する。花は **チ** 本以上用い、葉は自然組とするが、一番前に挿す葉は **リ** を用いる。花の高さ・向きに定めはない。花菖蒲は主枝・ **ヌ** にのみ用い、副枝には配材を用いる。

・二枚組	・葉	・下垂型	・副枝	・自然組	・八枚組
・中間枝	・五枚組	・横	・3	・直立型	・はかま
・爪	・11	・客枝	・縦	・三枚組	・実

〔2〕写景盛花様式本位における、下記の春の主材の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

主材	季節	描写法	取合せ
いちはつ	春	近景	いちはつ ・
麦	春	近景	麦 ・
小松	春	中景	小松 ・
梅	春	遠景	梅 ・

〔3〕いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○古田織部

① 時代の武将・茶人。 **②** の高弟。 **③** 、豊臣秀吉に仕え、のちに徳川家に通じ **④** の茶の湯師範をつとめた。当時の茶道・いけばなに新境地を開き、武家茶道の確立に努めた。茶陶に「 **⑤**」の原点をつくった。

○插花百練

⑥ 時代後期、未生流を興した **⑦** が口述した指導書『 **⑧**』ともいう。3本の役枝による基本の花型を **⑨** に当てはめ、これを「鱗(うろこ)」と称し、 **⑩** の宇宙観と虚実等分の理論によって生花の構成を説いた。指導書としてだけでなく、いけばな理論書としても貴重である。

・足利義満	・江戸	・秀忠	・小堀遠州	・天地和合	・不等辺三角形
・織部好み	・乾山焼	・千利休	・綱吉	・未生斎一甫	・直角二等辺三角形
・織田信長	・明治	・御飾記	・安土桃山	・池坊専応	・本朝插花百練

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○縮小挿法

遠景 描写において、**一木挿し** などの技法によって **遠望する大樹** を表現する際に、その配材にできるだけ

小ぶり なもの、しまったものを使い、**低く短く** いけて遠望する感を強調する挿法。

○一種挿し

一種の花材だけで構成する作品。写景盛花様式本位では、**蓮** (夏の遠景描写)、**燕子花** (春・初夏・夏・秋

・**晩秋** の近景描写)、花菖蒲 (夏の**近景** 描写)、**睡蓮** (夏の近景描写)が定められている。

・遠望する大樹	・燕子花	・冬	・大ぶり	・海芋	・遠景
・中景	・一木挿し	・蓮	・一株挿し	・睡蓮	・低く短く
・眼前の草花	・晩秋	・小ぶり	・近景	・河骨	・高く長く

〔2〕 下表花材の取合せを文人調いけばなと琳派調いけばなに区分し、各々季節を解答用紙に記しなさい。

(2点×10)

	花 材	区分	季節
1	竹似草 百合 藤ばかま なでしこ 刈萱	琳派調	夏
2	南天 水仙	文人調	冬
3	梅花うつぎ 萱草 あざみ	琳派調	夏
4	竹 芙蓉	文人調	夏
5	紫陽花 暖竹 燕子花 河骨 がんぴ	琳派調	夏
6	杜松 石化鶏頭 蔓梅もどき	文人調	秋
7	若松 菊 水仙 椿 裏白	琳派調	冬
8	柘榴 枯れ蓮 二輪菊	文人調	秋
9	豆柿 秋明菊 刈萱	文人調	秋
10	桐 竹 白椿	文人調	冬

〔3〕 いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○相阿弥

室町 時代後期の画家、香道家。祖父・**能阿弥**、父・**芸阿弥** と3代続いて将軍義政に仕え、『**御飾記**』

を記した。書画・茶器類の鑑定を行い、造園にも通じ、**銀閣寺** の庭園を造った。相阿弥筆と伝わる水墨画に

《瀟湘八景図屏風》《**孔老二聖像**》などがある。

○酒井抱一

江戸 時代後期の画家、俳人。姫路藩主・**酒井忠以** の弟。**尾形光琳** から京都の琳派の画風を再興し、後に「江戸琳

派」と呼ばれる繊細で洗練された表現を確立した。代表作に《**夏秋草図屏風**》などがある。

・江戸	・観阿弥	・酒井忠以	・桂離宮	・能阿弥	・君台観左右帳記
・御飾記	・尾形光琳	・鎌倉	・長谷川等伯	・銀閣寺	・夏秋草図屏風
・芸阿弥	・織田信長	・千利休	・聚楽第	・室町	・孔老二聖像

筆記試験

〔1〕写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○縮小挿法

イ 描写において、ロ などの技法によって ハ を表現する際に、その配材にできるだけ ニ なもの、しまったものを使い、ホ いけて遠望する感を強調する挿法。

○一種挿し

一種の花材だけで構成する作品。写景盛花様式本位では、ヘ (夏の遠景描写)、ト (春・初夏・夏・秋・チ の近景描写)、花菖蒲 (夏のリ 描写)、ヌ (夏の近景描写)が定められている。

・遠望する大樹	・燕子花	・冬	・大ぶり	・海芋	・遠景
・中景	・一木挿し	・蓮	・一株挿し	・睡蓮	・低く短く
・眼前の草花	・晩秋	・小ぶり	・近景	・河骨	・高く長く

〔2〕下表花材の取合せを文人調いけばなと琳派調いけばなに区分し、各々季節を解答用紙に記しなさい。

(2点×10)

	花 材	区分	季節
1	竹似草 百合 藤ばかま なでしこ 刈萱	調	
2	南天 水仙	調	
3	梅花うつぎ 萱草 あざみ	調	
4	竹 芙蓉	調	
5	紫陽花 暖竹 燕子花 河骨 がんぴ	調	
6	杜松 石化鶏頭 蔓梅もどき	調	
7	若松 菊 水仙 椿 裏白	調	
8	柘榴 枯れ蓮 二輪菊	調	
9	豆柿 秋明菊 刈萱	調	
10	桐 竹 白椿	調	

〔3〕いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○相阿弥

① 時代後期の画家、香道家。祖父・②、父・③と3代続いて将軍義政に仕え、『④』を記した。書画・茶器類の鑑定を行い、造園にも通じ、⑤の庭園を造った。相阿弥筆と伝わる水墨画に《瀟湘八景図屏風》《⑥》などがある。

○酒井抱一

⑦ 時代後期の画家、俳人。姫路藩主・⑧の弟。⑨ら京都の琳派の画風を再興し、後に「江戸琳派」と呼ばれる繊細で洗練された表現を確立した。代表作に《⑩》などがある。

・江戸	・観阿弥	・酒井忠以	・桂離宮	・能阿弥	・君台観左右帳記
・御飾記	・尾形光琳	・鎌倉	・長谷川等伯	・銀閣寺	・夏秋草図屏風
・芸阿弥	・織田信長	・千利休	・聚楽第	・室町	・孔老二聖像

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

◎ 一木挿し

P42

梅・ **桜** など、遠景描写で **1本の大樹** を表現する際の技法。 **直立型** に花型を構成する。まず主枝の **半分** ほどの長さの木（ぼく）を挿し、その木を中心に主枝・副枝・ **中間** を、根元をきつく寄せて挿す。副枝は主枝と同寸にして、主枝との間隔を広くとる。

◎ 一株挿し

木瓜 ・芽出し紫陽花など、中景描写で **低木状の茂み** になった木々の姿を表現する際の技法。直立型または **傾斜型** に花型を構成する。主枝・ **副枝** ・中間の根元を寄せて挿す技法ではあるが、遠景の一木挿しよりは挿し口をゆるやかにする。なお、 **万年青** や河骨など、株になって生えている状態を表現するものも、一株挿しと呼ぶ。

- | | | | | | |
|---------|-------|---------|---------|-------|----------|
| ・ 中間 | ・ 同寸 | ・ 万年青 | ・ 客枝 | ・ 下垂型 | ・ 低木状の茂み |
| ・ 傾斜型 | ・ 桜 | ・ 副枝 | ・ 眼前の草花 | ・ 半分 | ・ 木瓜 |
| ・ 南国の景観 | ・ 観水型 | ・ 1本の大樹 | ・ 2倍 | ・ 直立型 | ・ 輪状の株立ち |

〔2〕 下表の花材から連想する南画謎語画題および名数画題を選び、表中にふさわしい画題の番号を記入しなさい。(2点×10)

P86

- ①富貴長年 ②歳寒三友 ③平安長春 ④五瑞 ⑤蒼松寿古 ⑥子孫繁栄
 ⑦四君子 ⑧歳寒雅友 ⑨歳寒三清 ⑩玉堂富貴 ⑪三多 ⑫三君

	画 題	花 材		画 題	花 材
1	⑧	菊 椿 松	6	⑦	梅 竹 蘭 菊
2	⑪	柘榴 仏手柑 桃	7	②	松 竹 梅
3	⑨	梅 竹 水仙	8	③	竹 ばら
4	④	葵 菖蒲 蓮 柘榴 枇杷	9	⑩	玉蘭 牡丹 海棠
5	⑤	松 南天	10	①	牡丹 松

〔3〕 いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○ 本阿弥光悦

P107

安土桃山 時代から江戸初期に活躍した工芸家・画家・書家。 **刀剣** の鑑定などを行う家に生まれる。書に優れ、漆芸、 **陶芸** にも秀でた。京都・ **鷹ヶ峰** に芸術村をつくり、総合的芸術活動を行った。代表作に《 **舟橋時絵硯箱** 》などがある。

P98

○ 世阿弥

室町 時代初期の能役者（能楽師）、謡曲作家。 **観阿弥** の子。将軍足利義満・ **義持** に仕え、能楽を優雅なものに洗練するとともに、これに芸術論の基礎を与えた。『 **花伝書** 』『 **花鏡** 』『申楽談義』など23部の著がある。

- | | | | | | |
|-------|--------|------|------|-------|----------|
| ・ 観阿弥 | ・ 造園 | ・ 室町 | ・ 陶芸 | ・ 御飾記 | ・ 舟橋時絵硯箱 |
| ・ 花伝書 | ・ 安土桃山 | ・ 尊氏 | ・ 唐物 | ・ 鷹ヶ峰 | ・ 関谷凶屏風 |
| ・ 鎌倉 | ・ 本能寺 | ・ 花鏡 | ・ 刀剣 | ・ 能阿弥 | ・ 義持 |

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

◎ 一木挿し

梅・ **イ** など、遠景描写で **ロ** を表現する際の技法。 **ハ** に花型を構成する。まず主枝の **ニ** ほどの長さの木（ぼく）を挿し、その木を中心に主枝・副枝・ **ホ** を、根元をきつく寄せて挿す。副枝は主枝と同寸にして、主枝との間隔を広くとる。

◎ 一株挿し

ヘ ・芽出し紫陽花など、中景描写で **ト** になった木々の姿を表現する際の技法。直立型または **チ** に花型を構成する。主枝・ **リ** ・中間の根元を寄せて挿す技法ではあるが、遠景の一木挿しよりは挿し口をゆるやかにする。なお、 **ヌ** や河骨など、株になって生えている状態を表現するものも、一株挿しと呼ぶ。

・ 中間	・ 同寸	・ 万年青	・ 客枝	・ 下垂型	・ 低木状の茂み
・ 傾斜型	・ 桜	・ 副枝	・ 眼前の草花	・ 半分	・ 木瓜
・ 南国の景観	・ 観水型	・ 1本の大樹	・ 2倍	・ 直立型	・ 輪状の株立ち

〔2〕 下表の花材から連想する南画謎語画題および名数画題を選び、表中にふさわしい画題の番号を記入しなさい。(2点×10)

- ①富貴長年 ②歳寒三友 ③平安長春 ④五瑞 ⑤蒼松寿古 ⑥子孫繁栄
⑦四君子 ⑧歳寒雅友 ⑨歳寒三清 ⑩玉堂富貴 ⑪三多 ⑫三君

	画 題	花 材		画 題	花 材
1		菊 椿 松	6		梅 竹 蘭 菊
2		柘榴 仏手柑 桃	7		松 竹 梅
3		梅 竹 水仙	8		竹 ばら
4		葵 菖蒲 蓮 柘榴 枇杷	9		玉蘭 牡丹 海棠
5		松 南天	10		牡丹 松

〔3〕 いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○ 本阿弥光悦

A 時代から江戸初期に活躍した工芸家・画家・書家。 **B** の鑑定などを行う家に生まれる。書に優れ、漆芸、 **C** にも秀でた。京都・ **D** に芸術村をつくり、総合的芸術活動を行った。代表作に《 **E** 》などがある。

○ 世阿弥

F 時代初期の能役者（能楽師）、謡曲作家。 **G** の子。将軍足利義満・ **H** に仕え、能楽を優雅なものに洗練するとともに、これに芸術論の基礎を与えた。『 **I** 』『 **J** 』『申楽談義』など23部の著がある。

・ 観阿弥	・ 造園	・ 室町	・ 陶芸	・ 御飾記	・ 舟橋時絵硯箱
・ 花伝書	・ 安土桃山	・ 尊氏	・ 唐物	・ 鷹ヶ峰	・ 関谷凶屏風
・ 鎌倉	・ 本能寺	・ 花鏡	・ 刀剣	・ 能阿弥	・ 義持

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の遠近描写法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

1. 写景盛花様式本位のもつ特有の技法で、**水盤上** に表現する景観に **遠近感** を出すための技法。
2. 遠景・**中景** ・近景に大別される。遠景は遠望する **大樹** の姿、中景は枝ぶりよく生い茂る木々の姿、近景は **眼前** の草花や、木では枝ぶりや花・ **葉** の美しさを描写の主体とする。
3. 遠景描写に **一木挿し** ・縮小挿法、中景描写に **一株挿し** 、近景描写に水ものの **葉組** ・株挿しなどの定められた挿法がある。
4. 植物を高木・ **低木** ・草花に大別し、遠景・中景・近景の目的にあった取合せが定められている。

・葉	・中景	・瓶	・低木	・水盤上	・輪状の株立ち
・多面性	・大樹	・葉組	・遠近感	・一種挿し	・実
・下垂型	・海浜	・一株挿し	・親株	・眼前	・一木挿し

〔2〕 写景盛花様式本位に定められた、下記の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。

(ただし、一種挿しは除外すること)

(4点×5)

	主材	季節	描写法	取 合 せ
1	小松	夏	遠景	小松 ・ なでしこ ・ 日蔭
2	夏の多種挿し	夏	近景	夏はぜ ・ 笹百合 ・ なでしこ ・ 鳴子百合 ・ 桔梗
3	燕子花	夏	近景	燕子花 ・ 河骨 ・ 睡蓮
4	河骨	夏	近景	河骨 ・ 太藺
5	蓮	夏	近景	蓮 ・ 河骨

〔3〕 いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

ただし、同じ語句が2か所以上に入ることがある。

(2点×10)

育邑阿弥

室町 時代の連歌師、画家、詩人。唐物目利きの第一人者として、將軍足利 **義政** の **東山御物** の整理、鑑定を行い、『 **君台観左右帳記** 』を著したと伝えられている。水墨画、茶道、香道、連歌などにも通じていた。芸阿弥は子、**相阿弥** は孫。

仙伝抄

室町 時代末期の立て花の伝書。**富阿弥** から7人を経て、池坊専慈 (**専応** の誤りとされる) が天文5 (1536) 年に相伝したと記されている。内容は、本文・谷川流・奥輝之別紙の三つの部分から成る。本文は池坊系のいけばな、谷川流は **公家** の系統のいけばな、奥輝之別紙は **義政公御成式目** の異本であろうとされている。

・相阿弥	・公家	・尊氏	・東山御物	・義政	・義政公御成式目
・専好	・聚楽第	・鎌倉	・富阿弥	・武家	・花王以来の花伝書
・御飾記	・室町	・音阿弥	・専応	・桂離宮	・君台観左右帳記

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の遠近描写法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

1. 写景盛花様式本位のもつ特有の技法で、**A** に表現する景觀に **B** を出すための技法。
2. 遠景・**C** ・近景に大別される。遠景は遠望する **D** の姿、中景は枝ぶりよく生い茂る木々の姿、近景は **E** の草花や、木では枝ぶりや花・**F** の美しさを描写の主体とする。
3. 遠景描写に **G** ・縮小挿法、中景描写に **H** 、近景描写に水ものの **I** ・株挿しなどの定められた挿法がある。
4. 植物を高木・**J** ・草花に大別し、遠景・中景・近景の目的にあった取合せが定められている。

・葉	・中景	・瓶	・低木	・水盤上	・輪状の株立ち
・多面性	・大樹	・葉組	・遠近感	・一種挿し	・実
・下垂型	・海浜	・一株挿し	・親株	・眼前	・一木挿し

〔2〕 写景盛花様式本位に定められた、下記の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。

(ただし、一種挿しは除外すること)

(4点×5)

	主材	季節	描写法	取 合 せ
1	小松	夏	遠景	小松 ・
2	夏の多種挿し	夏	近景	夏はぜ ・
3	燕子花	夏	近景	燕子花 ・
4	河骨	夏	近景	河骨 ・
5	蓮	夏	近景	蓮 ・

〔3〕 いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

ただし、同じ語句が2か所以上に入ることがある。

(2点×10)

菅原阿弥

イ 時代の連歌師、画家、詩人。唐物目利きの第一人者として、将軍足利 **ロ** の **ハ** の整理、鑑定を行い、『**ニ**』を著したと伝えられている。水墨画、茶道、香道、連歌などにも通じていた。菅原阿弥は子、**ホ** は孫。

仙伝抄

ヘ 時代末期の立て花の伝書。**ト** から7人を経て、池坊専慈 (**チ** の誤りとされる) が天文5 (1536) 年に相伝したと記されている。内容は、本文・谷川流・奥輝之別紙の三つの部分から成る。本文は池坊系のいけばな、谷川流は **リ** の系統のいけばな、奥輝之別紙は **ヌ** の異本であろうとされている。

・相阿弥	・公家	・尊氏	・東山御物	・義政	・義政公御成式目
・専好	・聚楽第	・鎌倉	・富阿弥	・武家	・花王以来の花伝書
・御飾記	・室町	・音阿弥	・専応	・桂離宮	・君台観左右帳記

筆記試験

〔1〕燕子花の写景盛花様式本位における季節ごとの挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。ただし、同じ語句を2回使うことがあります。(2点×10)

季節	挿法の要点
春	①二枚組 の表組・裏組、②五枚組、③水切り葉 を使う。 葉組の丈は④低め にし、下は広く上は締まるようにふっくらと組む。
初夏	季節の移り変わりを表現するため、春と夏の株を混用し、主・副の株は⑤夏 の挿法、客株を⑥春 の挿法とする。
夏	春の⑦水切り葉 がなくなり、五枚組が⑧三枚組 になり、二枚組の⑨表組・裏組、三枚組を用いる。葉組は下を締めて上を開き、⑩花 は葉組の上に高く抜き出す。伸び伸びと成長した夏の旺盛な姿を表現する。

P.44

- ・二枚組 ・垂れ葉 ・春 ・初夏 ・花 ・水切り葉 ・三枚組 ・つぼみ
- ・夏 ・高め ・低め ・五枚組 ・実 ・自然組 ・右高 ・表組・裏組
- ・左高 ・虫食い葉

〔2〕写景盛花様式本位「夏」の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	描写法	主材	取合せ
1	遠景	小松	小松 なでしこ 日蔭
2	中景	ななかまど	ななかまど 姫百合 日蔭または山しだ
3	近景	夏の三種挿し	夏はぜ 姫百合 桔梗
4	近景	夏の多種挿し	夏はぜ 笹百合 なでしこ 鳴子百合 桔梗

P.64、65

〔3〕いけばな史に現れる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

●俵屋宗達

P.107

A. 江戸 時代前期の画家。大胆な構図や独特の技法を用いて、伝統的な B. 大和絵 から装飾的な新しい様式を想像し、「琳派の祖」と呼ばれた。代表作に《 C. 風神雷神図屏風 》《 関屋図屏風 》などがある。

●与謝蕪村

P.109

江戸時代中期の俳人・ D. 文人 画家。俳諧復興運動の中心となり、「 E. 俳画 」を絵画の一形式として確立した。代表作に、 F. 池大雅 との合作《十便十宜図》などがある。

●『挿花百鍊』

P.105

江戸時代後期、未生流を興した G. 未生斎一甫 が公述した指導書。『本朝挿花百鍊』ともいう。3本の役枝による基本の花型を H. 直角二等辺三角形 に当てはめ、これを「鱗」と称し、 I. 天地和合 の宇宙観と、 J. 虚実等分 の理論によって生花の構成を説いた。

- ・俵屋宗達 ・直角二等辺三角形 ・琳派 ・水墨画 ・江戸 ・燕子花図屏風
- ・池坊専定 ・風神雷神図屏風 ・文人 ・虚実等分 ・大和絵 ・天地和合
- ・池坊専慈 ・未生斎一甫 ・鎌倉 ・池大雅 ・俳画 ・室町

筆記試験

〔1〕 燕子花の写景盛花様式本位における季節ごとの挿法について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。ただし、同じ語句を2回使うことがあります。 (2点×10)

季節	挿法の要点
春	① の表組・裏組、②、③ を使う。 葉組の丈は④ にし、下は広く上は締まるようにふっくらと組む。
初夏	季節の移り変わりを表現するため、春と夏の株を混用し、主・副の株は⑤ の挿法、客株を⑥ の挿法とする。
夏	春の⑦ がなくなり、五枚組が⑧ になり、二枚組の⑨、三枚組を用いる。葉組は下を締めて上を開き、⑩ は葉組の上に高く抜き出す。伸び伸びと成長した夏の旺盛な姿を表現する。

P.44

- ・二枚組 ・垂れ葉 ・春 ・初夏 ・花 ・水切り葉 ・三枚組 ・つぼみ
- ・夏 ・高め ・低め ・五枚組 ・実 ・自然組 ・右高 ・表組・裏組
- ・左高 ・虫食い葉

〔2〕 写景盛花様式本位「夏」の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。 (5点×4)

	描写法	主材	取合せ
1	遠景	小松	
2	中景	ななかまど	
3	近景	夏の三種挿し	
4	近景	夏の多種挿し	

〔3〕 いけばな史に現れる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。 (2点×10)

● 俵屋宗達

A. 時代前期の画家。大胆な構図や独特の技法を用いて、伝統的な B. から装飾的な新しい様式を想像し、「琳派の祖」と呼ばれた。代表作に《 C. 》《 関屋図屏風 》などがある。

● 与謝蕪村

江戸時代中期の俳人・ D. 画家。俳諧復興運動の中心となり、「 E. 」を絵画の一形式として確立した。代表作に、 F. との合作《十便十宜図》などがある。

● 『挿花百鍊』

江戸時代後期、未生流を興した G. が公述した指導書。『本朝挿花百鍊』ともいう。3本の役枝による基本の花型を H. に当てはめ、これを「鱗」と称し、 I. の宇宙観と、 J. の理論によって生花の構成を説いた。

- ・俵屋宗達 ・直角二等辺三角形 ・琳派 ・水墨画 ・江戸 ・燕子花図屏風
- ・池坊専定 ・風神雷神図屏風 ・文人 ・虚実等分 ・大和絵 ・天地和合
- ・池坊専慈 ・未生斎一甫 ・鎌倉 ・池大雅 ・俳画 ・室町

筆記試験

[1] 次の花材の写景盛花様式本位に定められている事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。同じ語句が二度入ることがあります。(2点×10)

◆ 睡蓮

描写法/ ① 近景 描写 花型/ ② 直立型

一株挿しとする。一株の構成は、開き葉 ③ 3 枚、花1輪、巻き葉 ④ 1 本、流し葉1～ ⑤ 2 枚が基本となる。

◆ しゃが

描写法/ ⑥ 近景 描写 花型/ 直立型

⑦ 自然組 を基本として、葉先の ⑧ 垂れ下がる 姿を生かす。自然組で三枚組、二枚組になるように整理する。形がよければ四枚組、五枚組でもよい。開花期には ⑨ 花 を主・副・中間に用いる。折れ葉、破れ葉、⑩ 虫食い葉 は使ってはいけない。

・遠景	・直立型	・葉組	・虫つづり葉	・自然組	・のびのびした
・中景	・五枚組	・5	・傾斜型	・3	・花
・三枚組	・1	・2	・近景	・垂れ下がる	・虫食い葉

[2] 写景盛花様式本位「夏」の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	描写法	主材	取合せ
1	遠景	小松	小松 なでしこ 日蔭
2	中景	夏はぜ	夏はぜ あざみ 日蔭または山しだ
3	近景	夏の三種挿し	夏はぜ 姫百合 桔梗
4	近景	蓮	蓮 河骨

[3] いけばな史に現れる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

● 俵屋宗達

A. 江戸 時代前期の画家。大胆な構図や独特の技法を用いて、伝統的な B. 大和絵 から装飾的な新しい様式を想像し、「琳派の祖」と呼ばれた。代表作に《 C. 風神雷神図屏風 》《 関屋図屏風 》などがある。

● 酒井抱一

江戸時代後期の画家、俳人。 D. 尾形光琳 から京都の琳派の画風を再興し、のちに「 E. 江戸琳派 」と呼ばれる繊細で洗練された表現を確立した。代表作に《 F. 夏秋草図屏風 》などがある。

● 『挿花百鍊』

江戸時代後期、未生流を興した G. 未生齋一甫 が口述した指導書。『本朝挿花百鍊』ともいう。3本の役枝による基本の花型を H. 直角二等辺三角形 に当てはめ、これを「鱗」と称し、 I. 天地和合 の宇宙観と、 J. 虚実等分 の理論によって生花の構成を説いた。

・尾形光琳	・直角二等辺三角形	・浮世絵	・鈴木其一	・江戸
・風神雷神図屏風	・江戸琳派	・虚実等分	・大和絵	・天地和合
・池坊専慈	・未生齋一甫	・鎌倉	・夏秋草図屏風	・燕子花図屏風

筆記試験

〔1〕 次の花材の写景盛花様式本位に定められている事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。同じ語句が二度入ることがあります。(2点×10)

◆ 睡蓮

描写法／ ① 描写 花型／ ②

一株挿しとする。一株の構成は、開き葉 ③ 枚、花1輪、巻き葉 ④ 本、流し葉1～ ⑤ 枚が基本となる。

◆ しゃが

描写法／ ⑥ 描写 花型／ 直立型

⑦ を基本として、葉先の ⑧ 姿を生かす。自然組で三枚組、二枚組になるように整理する。形がよければ四枚組、五枚組でもよい。開花期には ⑨ を主・副・中間に用いる。折れ葉、破れ葉、⑩ は使ってはいけない。

- | | | | | | |
|------|------|-----|--------|--------|---------|
| ・遠景 | ・直立型 | ・葉組 | ・虫つづり葉 | ・自然組 | ・のびのびした |
| ・中景 | ・五枚組 | ・5 | ・傾斜型 | ・3 | ・花 |
| ・三枚組 | ・1 | ・2 | ・近景 | ・垂れ下がる | ・虫食い葉 |

〔2〕 写景盛花様式本位「夏」の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	描写法	主材	取合せ
1	遠景	小松	小松
2	中景	夏はぜ	夏はぜ
3	近景	夏の三種挿し	
4	近景	蓮	

〔3〕 いけばな史に現れる次の事項について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

● 俵屋宗達

A. 時代前期の画家。大胆な構図や独特の技法を用いて、伝統的な B. から装飾的な新しい様式を想像し、「琳派の祖」と呼ばれた。代表作に《 C. 》《 関屋図屏風 》などがある。

● 酒井抱一

江戸時代後期の画家、俳人。 D. から京都の琳派の画風を再興し、のちに「 E. 」と呼ばれる繊細で洗練された表現を確立した。代表作に《 F. 》などがある。

● 『挿花百鍊』

江戸時代後期、未生流を興した G. が口述した指導書。『本朝挿花百鍊』ともいう。3本の役枝による基本の花型を H. に当てはめ、これを「鱗」と称し、 I. の宇宙観と、 J. の理論によって生花の構成を説いた。

- | | | | | |
|----------|-----------|-------|---------|---------|
| ・尾形光琳 | ・直角二等辺三角形 | ・浮世絵 | ・鈴木其一 | ・江戸 |
| ・風神雷神図屏風 | ・江戸琳派 | ・虚実等分 | ・大和絵 | ・天地和合 |
| ・池坊専慈 | ・未生斎一甫 | ・鎌倉 | ・夏秋草図屏風 | ・燕子花図屏風 |

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の「秋の散り紅葉」の挿花について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、
解答用紙に文字で記入しなさい。ただし重複しても構わない。 (2点×10)

P60

水盤の **A. 前半分** に水面を見せ、花材は **B. 後ろ半分** にいけ上げる。
まず、いったん苔つつじを **C. 傾斜型** の主・副・中間・客の扱いで **D. 左右** に展開させ、次に女郎花を挿す。
この様式の場合には後から入れる女郎花が **E. 主枝** で、先に入れた苔つつじの主枝が **F. 直立型** の **G. 副枝** と
みなされる。ただし、女郎花の扱いと苔つつじの状態によっては、全体を **H. 傾斜型** として構成しても間違いではない。
苔つつじは、全体を構成する上で重要な役割を担っている。 **I. 竜胆** は主の側に1本低く、客の側に2本、長短をつけて
挿す。水面に散らした紅葉が **J. 客枝** となる。

・前半分	・中間枝	・直立型	・右半分	・左右
・副枝	・傾斜型	・竜胆	・観水型	・客枝
・前後	・左半分	・上下	・後ろ半分	・主枝

P65

〔2〕 写景盛花様式本位に定められた、下記の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。 (5点×4)

	描写法	花材	取 合 せ				
1	近景	秋の多種挿し	薄	・ 女郎花	・ 竜胆	・ われもこう	・ 日蔭
2	近景	ほととぎす	ほととぎす	・ 小菊	・ 日蔭		
3	中景	木瓜	木瓜	・ 竜胆	・ 日蔭		
4	遠景	米つつじ	米つつじ	・ 小菊	・ 日蔭		

P107

〔3〕 次の人物について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。 (2点×10)

○鈴木其一

1. 江戸 時代後期の画家。 **2. 酒井抱一** の高弟。江戸 **3. 琳派** の優美な画風を受け継ぎつつ、斬新で独創的な
作品へと発展させた。代表作に「 **4. 夏秋溪流図屏風** 」などがある。

P 99

○古田織部

5. 安土桃山 時代の武将・茶人。 **6. 千利休** の高弟。 **7. 織田信長** ・ **8. 豊臣秀吉** に仕え、後に徳川家に通じ
9. 秀忠 の茶の湯師範をつとめた。当時茶道・いけばなの新境地を開き、武家茶道の確立につとめた。
茶陶に「 **10. 織部好み** 」の原点を作った。

・ 世阿弥	・ 琳派	・ 酒井抱一	・ 尾形光琳	・ 織田信長	・ 秀忠
・ 織部好み	・ 信楽焼	・ 安土桃山	・ 洛中洛外図屏風	・ 室町	・ 江戸
・ 文人	・ 千利休	・ 豊臣秀吉	・ 夏秋溪流図屏風	・ 家光	・ 本阿弥光悦

筆記試験

[1] 写景盛花様式本位の「秋の散り紅葉」の挿花について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、
解答用紙に文字で記入しなさい。ただし重複しても構わない。(2点×10)

水盤の **A** に水面を見せ、花材は **B** にいけ上げる。
まず、いったん苔つつじを **C** の主・副・中間・客の扱いで **D** に展開させ、次に女郎花を挿す。
この様式の場合には後から入れる女郎花が **E** で、先に入れた苔つつじの主枝が **F** の **G** と
みなされる。ただし、女郎花の扱いと苔つつじの状態によっては、全体を **H** として構成しても間違いではない。
苔つつじは、全体を構成する上で重要な役割を担っている。**I** は主の側に1本低く、客の側に2本、長短をつけて
挿す。水面に散らした紅葉が **J** となる。

- | | | | | |
|------|------|------|-------|-----|
| ・前半分 | ・中間枝 | ・直立型 | ・右半分 | ・左右 |
| ・副枝 | ・傾斜型 | ・竜胆 | ・観水型 | ・客枝 |
| ・前後 | ・左半分 | ・上下 | ・後ろ半分 | ・主枝 |

[2] 写景盛花様式本位に定められた、下記の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。(5点×4)

	描写法	花材	取 合 せ
1	近景	秋の多種挿し	
2	近景	ほととぎす	ほととぎす・
3	中景	木瓜	木瓜・
4	遠景	米つつじ	米つつじ・

[3] 次の人物について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○鈴木其一

1 時代後期の画家。**2** の高弟。江戸 **3** の優美な画風を受け継ぎつつ、斬新で独創的な
作品へと発展させた。代表作に「 **4** 」などがある。

○古田織部

5 時代の武将・茶人。**6** の高弟。**7** ・ **8** に仕え、後に徳川家に通じ **9** の茶の湯師範をつとめた。
当時茶道・いけばなの新境地を開き、武家茶道の確立につとめた。茶陶に「 **10** 」の原点を作った。

- | | | | | | |
|-------|------|-------|----------|-------|--------|
| ・世阿弥 | ・琳派 | ・酒井抱一 | ・尾形光琳 | ・織田信長 | ・秀忠 |
| ・織部好み | ・信楽焼 | ・安土桃山 | ・洛中洛外図屏風 | ・室町 | ・江戸 |
| ・文人 | ・千利休 | ・豊臣秀吉 | ・夏秋溪流図屏風 | ・家光 | ・本阿弥光悦 |

P.50 [1] 写景盛花様式本位の基本取合せで、「四季」の中景・近景の取合せと挿法の要点について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○ドラセナ・コンシンナ

描写法:中景 取合せ:ドラセナ・コンシンナ、ベゴニア、日蔭 花型:直立型

A. 主枝 ・副枝・ B. 中間枝 にドラセナ・コンシンナを C. 3 本用いる。副枝の傾斜角度は基準より起こし気味に、D. 30度 くらいにとどめる。 E. 南国情趣 を表現する写景盛花と考える。ベゴニアは、中景にふさわしい小型で葉の締まったものを選び、中間・ F. 客枝 に挿す。

○サンセベリア

描写法:近景 取合せ:サンセベリア、プリムラ、日蔭 花型: G. 直立型

葉 H. 5 枚を I. 株挿し にする。葉のうねりを生かして、主枝・ J. 副枝 ・中間に挿し、株の眺めを上手に出すようにする。近景描写のため、あまり葉丈を短くする必要はない。

・中間枝	・8	・30度	・観水型	・副枝	・眼前の草花
・直立型	・主枝	・11	・客枝	・5	・南国情趣
・90度	・株挿し	・傾斜型	・3	・下垂型	・一木挿し

P.86 [2] 下表花材の取合せを文人調いけばなと琳派調いけばなに整理し、各々季節を解答用紙に記しなさい。(2点×10)

	花 材	区分	季節
1	竹似草 百合 藤ばかま なでしこ 刈萱	琳派調	夏
2	南天 水仙	文人調	冬
3	梅花うつぎ 萱草 あざみ	琳派調	夏
4	竹 芙蓉	文人調	夏
5	紫陽花 暖竹 燕子花 河骨 がんぴ	琳派調	夏
6	杜松 石化鶏頭 蔓梅もどき	文人調	秋
7	若松 菊 水仙 椿 裏白	琳派調	冬
8	柘榴 枯れ蓮 二輪菊	文人調	秋
9	豆柿 秋明菊 刈萱	文人調	秋
10	桐 竹 白椿	文人調	冬

P.96 [3] いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄には当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○立て花

しんを立てることを重視した花形で、 1. 二代池坊専好 (1570~1658)の時代までに成立、流行した素朴な形式のいけばな。 2. 座敷飾り の花や仏前の 3. 供花 として立てられた花で、しんに下草がなびく構成になっている。

P.97 ○文人花

4. 文人 いけともいう。 5. 立華 や 6. 生花 のように形式を持たないいけばな。
7. 江戸 時代の文人たちが形式にとらわれず自由な心持ちで花をいけ、楽しみとしていたところからこの名がある。

P.97 ○盛花

8. 明治 中期、流祖 9. 小原雲心 によって創案された。
10. 水盤 など広口で底の浅い花器に盛るようにいけたいけばな。

・座敷飾り	・文人	・小原雲心	・桃山	・供花	・中国
・二代池坊専好	・鎌倉	・掛け花	・水盤	・小原光雲	・生花
・明治	・自由創作	・茶室	・池坊専好	・江戸	・立華

筆記試験

[1] 写景盛花様式本位の基本取合せで、「四季」の中景・近景の取合せと挿法の要点について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○ドラセナ・コンシンナ

描写法:中景 取合せ:ドラセナ・コンシンナ、ペゴニア、日蔭 花型:直立型

・副枝・ にドラセナ・コンシンナを 本用いる。副枝の傾斜角度は基準より起こし気味に、 くらいにとどめる。 を表現する写景盛花と考える。ペゴニアは、中景にふさわしい小型で葉の締まったものを選び、中間・ に挿す。

○サンセベリア

描写法:近景 取合せ:サンセベリア、プリムラ、日蔭 花型:

葉 枚を にする。葉のうねりを生かして、主枝・ ・中間に挿し、株の眺めを上手に出すようにする。近景描写のため、あまり葉丈を短くする必要はない。

・中間枝	・8	・30度	・観水型	・副枝	・眼前の草花
・直立型	・主枝	・11	・客枝	・5	・南国情趣
・90度	・株挿し	・傾斜型	・3	・下垂型	・一木挿し

[2] 下表花材の取合せを文人調いけばなと琳派調いけばなに整理し、各々季節を解答用紙に記しなさい。(2点×10)

	花材	区分	季節
1	竹似草 百合 藤ばかま なでしこ 刈萱	調	
2	南天 水仙	調	
3	梅花うつぎ 萱草 あざみ	調	
4	竹 芙蓉	調	
5	紫陽花 暖竹 燕子花 河骨 がんぴ	調	
6	杜松 石化鶏頭 蔓梅もどき	調	
7	若松 菊 水仙 椿 裏白	調	
8	柘榴 枯れ蓮 二輪菊	調	
9	豆柿 秋明菊 刈萱	調	
10	桐 竹 白椿	調	

[3] いけばな史にあらわれる次の事項について、空欄には当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。(2点×10)

○立て花

しんを立てることを重視した花形で、 (1570~1658)の時代までに成立、流行した素朴な形式のいけばな。

の花や仏前の として立てられた花で、しんに下草がなびく構成になっている。

○文人花

いけともいう。 や のように形式を持たないいけばな。 時代の文人たちが形式にとらわれず自由な心持ちで花をいけ、楽しみとしていたところからこの名がある。

○盛花

中期、流祖 によって創案された。 など広口で底の浅い花器に盛るようにいけたいけばな。

・座敷飾り	・文人	・小原雲心	・桃山	・供花	・中国
・二代池坊専好	・鎌倉	・掛け花	・水盤	・小原光雲	・生花
・明治	・自由創作	・茶室	・池坊専好	・江戸	・立華

筆記試験

P42 [1] 写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。
(2点×10)

○縮小挿法

A. 遠景 描写において、**B. 一木挿し** などの技法によって **C. 遠望する大樹** を表現する際に、その配材にできるだけ **D. 小ぶり** なもの、縮まったものを使い、**E. 低く短く** いけて遠望する感を強調する挿法。

○一種挿し

一種の花材だけで構成する作品。写景盛花様式本位では、**F. 蓮** (夏の遠景描写)、**G. 燕子花** (春・初夏・夏・秋・**H. 晩秋** の近景描写)、花菖蒲 (夏の **I. 近景** 描写)、**J. 睡蓮** (夏の近景描写)が定められている。

・遠望する大樹	・燕子花	・冬	・大ぶり	・ななかまど	・遠景
・中景	・一木挿し	・蓮	・一株挿し	・睡蓮	・低く短く
・眼前の草花	・晩秋	・小ぶり	・近景	・夏はぜ	・高く長く

P66 [2] 写景盛花様式本位の下記の主材による、冬の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。
(5点×4)

描写法	主材	取合せ
近景	敷き松葉	藪柑子 日蔭 枯れ松葉
近景	水仙	水仙 寒菊 (小菊) 日蔭
中景	実南天	実南天 寒菊 (小菊) 日蔭
遠景	小松	小松 寒菊 (小菊) 日蔭

[3] いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。
(2点×10)

○尾形乾山

1. 江戸 時代中期の **2. 陶工** ・画家。尾形光琳の弟。野々村仁清に陶芸の技法を学び、大胆でおおらかなデザインの器は「**3. 乾山焼**」と呼ばれた。代表作に<銹藍金絵替皿>などがある。

○大住院以信

江戸時代前期の **4. 立華師** 。京都 **5. 本能寺** の僧で **6. 二代専好** と並ぶ名人と評された。江戸へ下向していた際は、大名屋敷を中心に活躍し、京都では宮廷や公家社会で活躍した。

○千利休

7. 安土桃山 時代の茶人。 **8. 千家流** の祖。 **9. 武野紹鷗** に茶道を学び、 **10. 侘茶** を完成させた。初め織田信長に仕え、のちに豊臣秀吉に仕えて寵遇が厚かったが、秀吉の怒りを受けて死を賜わった。

・安土桃山	・池坊専応	・伊万里焼	・千家流	・小堀遠	・陶工
・南画面題	・聚楽第	・砂之物	・乾山焼	・江戸	・侘茶
・世阿弥	・二代専好	・武野紹鷗	・明治	・立華師	・本能寺

筆記試験

〔1〕 写景盛花様式本位の次の挿法について、空欄に当てはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○縮小挿法

A 描写において、**B** などの技法によって **C** を表現する際に、その配材にできるだけ **D** なもの、縮まったものを使い、**E** いて遠望する感を強調する挿法。

○一種挿し

一種の花材だけで構成する作品。写景盛花様式本位では、**F** (夏の遠景描写)、**G** (春・初夏・夏・秋・**H** の近景描写)、花菖蒲 (夏の **I** 描写)、**J** (夏の近景描写)が定められている。

・遠望する大樹	・燕子花	・冬	・大ぶり	・ななかまど	・遠景
・中景	・一木挿し	・蓮	・一株挿し	・睡蓮	・低く短く
・眼前の草花	・晩秋	・小ぶり	・近景	・夏はぜ	・高く長く

〔2〕 写景盛花様式本位の下記の主材による、冬の基本取合せを解答用紙に記入しなさい。

(5点×4)

描写法	主材	取合せ
近景	敷き松葉	
近景	水仙	水仙・
中景	実南天	実南天・
遠景	小松	小松・

〔3〕 いけばな史における次の事項について、空欄にあてはまる語句を下記より選択し、解答用紙に文字で記入しなさい。

(2点×10)

○尾形乾山

1 時代中期の **2** ・画家。尾形光琳の弟。野々村仁清に陶芸の技法を学び、大胆でおおらかなデザインの器は「**3**」と呼ばれた。代表作に<錆藍金絵替皿>などがある。

○大住院以信

江戸時代前期の **4** 。京都 **5** の僧で **6** と並ぶ名人と評された。

江戸へ下向していた際は、大名屋敷を中心に活躍し、京都では宮廷や公家社会で活躍した。

○千利休

7 時代の茶人。**8** の祖。**9** に茶道を学び、**10** を完成させた。

初め織田信長に仕え、のちに豊臣秀吉に仕えて寵遇が厚かったが、秀吉の怒りを受けて死を賜わった。

・安土桃山	・池坊専応	・伊万里焼	・千家流	・小堀遠	・陶工
・南画画題	・聚楽第	・砂之物	・乾山焼	・江戸	・侘茶
・世阿弥	・二代専好	・武野紹鷗	・明治	・立華師	・本能寺